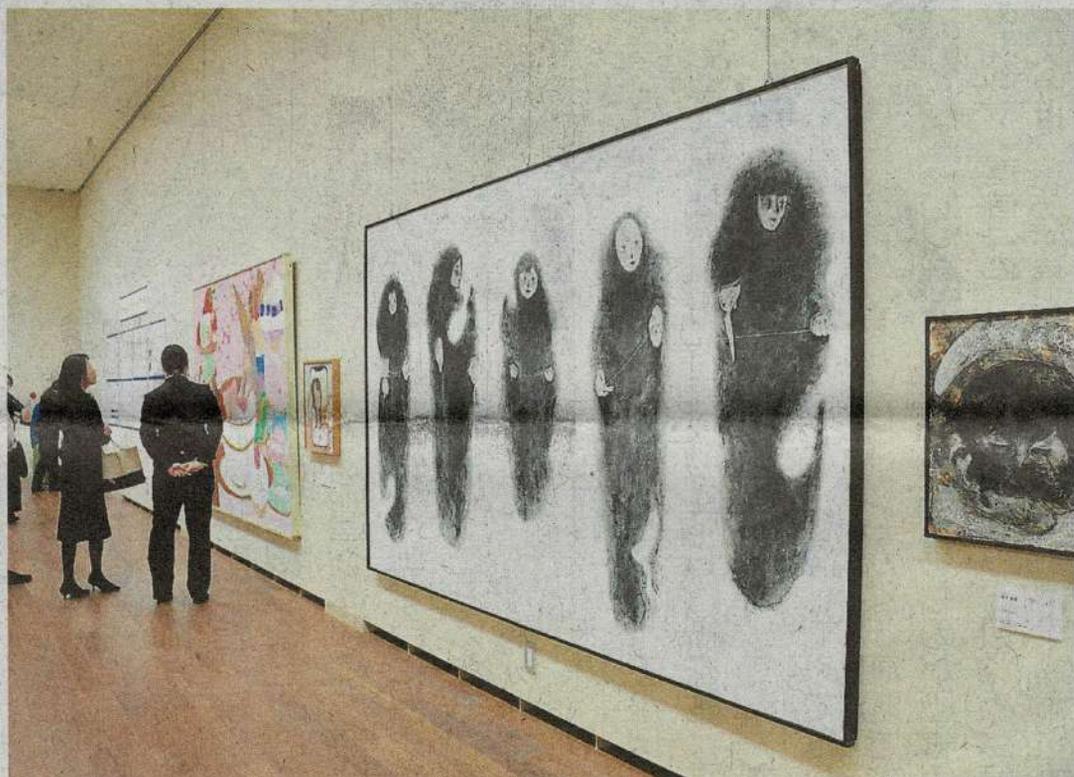


# 人生いろいろ「みち」表現

崇城大卒業・修了展 県美本館、25日まで

絵画やグラフィックなどが並ぶ崇城大芸術学部卒業展・大学院芸術研究科修了展Ⅱ20日、熊本市中央区



学科、大学院を今春卒業・修了する70人が332点を並べた。酒井貴輝さん（4年）の日本画は、ギリシヤ神話の運命の女神がモチーフ。まゆのようなものに包まれた人間が糸とはさみを手にしており、道を決めるのは自分自身という決意を表した。

「早起き」「人間関係」といった看板の言葉が特徴的な竹内心織さん（4年）の洋画は、生活の中で「面倒くさい、憂鬱だ」と感じてしまうことを、対照的ともいえるきらびやかなネオン街に重ねた。マイナスな感情を乗り越えてきたからこそ今があり、未来につながっていくことを感じられる大作だ。

海洋ごみで作ったすしの模型を通して環境問題を考える作品や、インスタグラムの「におわせ」にまつわるコミュニケーションの研究なども展示している。  
(澤本麻里子)

崇城大芸術学部卒業展・大学院芸術研究科修了展が20日、熊本市中央区の熊本県立美術館本館で始まった。今年「みち・

みち・みち」をテーマに、「人

生とは未知に満ちた道である」という意味を込めたそれぞれの「みち」を、絵画やグラフィックなどで表現した。25日まで。

芸術学部美術学科とデザイン